

千葉県の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの調査概要（平成 29 年 3 月 24 日実施）

平成 29 年 3 月 24 日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境及び施設配置

- ①当該農場は、平野部に位置し、付近は水田や畑に囲まれている。また、当該農場の近隣にはため池や沼などは確認されず、水田にも水は張られておらず、水鳥も確認されなかった。一方で、発生農場から約 3 km 離れた場所には、水鳥が飛来する周囲 1 km ほどの池があり、カモ類（主にコガモやマガモ）が 1,000 羽程度確認された。
- ②当該農場には 3 棟の鶏舎（いずれも開放鶏舎、2 鶏舎は高床式、1 鶏舎は低床式）があり、そのうち 1 鶏舎（高床式）で発生が確認された。なお、当該農場の管理人によると、発症・死亡鶏は、最初に鶏舎の中央付近で確認されたとのことであった。

2 管理人及び従業員

- ①管理人によると、当該農場の鶏舎の管理は、関連農場を含めて 10 名で行われており、原則として、農場毎に担当者が決められているとのことであった。
- ②管理人によると、従業員は、集卵施設内の一区画で履物の交換や作業用の上着の着用を行い、鶏舎に入っているとのことであった。

3 農場の飼養衛生管理

- ①鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋がされており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ②農場における給与水は、汲み上げた地下水を塩素消毒した上で、パイプによって各鶏舎に供給されている。
- ③鶏卵は、機械（集卵ベルト）により集卵施設に集められ、1 日に 1 回出荷されている。
- ④管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトの際に、鶏舎内に堆積した鶏糞を搬出している。
- ⑤管理人によると、当該農場に車両が出入りする場合、車両が出た後に、駐車スペースを動力噴霧器で消毒しているとのことであった。また、鶏舎出入口等には、数日に 1 回、消石灰の散布を行っているとのことであった。

4 野鳥・野生動物対策

- ①発生鶏舎の側面は金網（マス目は最大約 5 cm）とその外側にロールカーテンが設置されている。管理人によると、ロールカーテンは冬期の間は下ろしたままにしているとのことであった。
- ②発生鶏舎の側面は、金網とその外側にロールカーテンが設置されているが、発生鶏舎の側面の一部にロールカーテンの剥がれ、金網の部分に 10 cm 四方の穴、発生鶏舎の側面下部の壁と土台（基礎）との間に小型の野生動物が侵入可能な 3 cm 程度の隙間がそれぞれ確認された箇所があった。なお、いずれの箇所も鶏舎の床下につながっている。
- ④管理人によると、当該農場ではネズミを見たことはないが、殺鼠剤を混ぜた餌が食べられていたことがあったとのこと。また、発生鶏舎内ではネズミの糞が確認された。

5 死亡鳥の取扱い

管理人によると、農場内の堆肥置場で鶏糞と混合し、堆肥として処理しているとのことであった。